

国内アルミニ需給は引き締まつたまま

アルミ自動車関係の好調で輸入増
橋本金属 橋本健一郎氏リポート②

概況

四月前半は米雇用統計で非農業部門雇用者が一九・二万人の増加と事前予想の二〇万増は下回ったこと、ECB総裁が「ユーロが上昇すれば金融緩和が必要になると」のコメントを受けユーロが下落したことなどマイナス材料はあったが、FOMC、三月十八・十九日の議事要旨で、数人の参加者が政策金利見通しが金融引き締めに積極的と受け止められる可能性に懸念を表明したことが明らかになり、FRBが緩和的な金融政策の解除を急ぐとの見方が後退したこと、ウクライナの再緊張でアルミなどに供給不透明感が広がったこと、LMEの倉庫改革も英最高裁でNGとなつたことを好感しLMEアルミニ相場は上昇、一・八四八ドル(現物後場買入)と前月最終価格から一二・九ドル上げての前半締めとなつた。

後半はドラギECB総裁が広範囲な資産買入の可能性を示唆したこと、四月の独IFO業況指数は一一・一二に上昇、予想の一・二〇・五を上回つたこと、四月の米ISM製造業景況指数は五四・九で事前予想の五四・三を上回つたこと、三月の米建設支出は前月比〇・二%増だつたことなどの好材料があったが、米FOMCで資産購入枠が月四五〇億ドルに圧縮されたこと、四月の中中国製造業購買担当者指数が五〇・四と予想の五〇・五を下回つたこと、米週間新規失業保険申請件数は三二・九万件に増加、予想の三一・五万件を上回つたことが嫌気され下落。五月七日現在、LMEアルミニ(現物後場)一・七四一ドルと前半締めから一〇七ドル下落してのスタートとなつた。

◆前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTS)

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一一・四%減の一八万八・八六四台。数は前年比一・九%減の六万九、四一戸であつた。

◆新設住宅着工戸数
日本交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一・九%減の六万九、四一戸であつた。

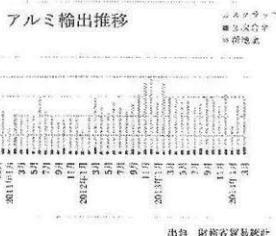
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一一・四%減の一八万八・八六四台。数は前年比一・九%減の六万九、四一戸であつた。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニ新地金が前年比九・六%増の二七三t、二次合金が八七・四%増の一・七九七t、スクラップが九・一%減の一萬一・五一八t。

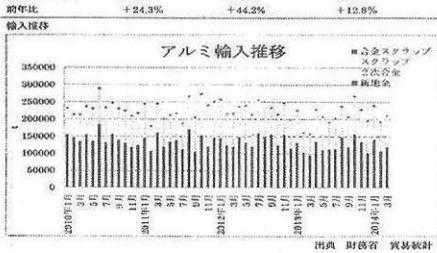
輸入は新地金が前年比二五・七%増の一一万九・七一四t、二次合金が四五・六%増の八万八・二〇四t、スクラップが〇・九六%増の七三七t、合金スクラップは一二・八%増の三、四五五t。

	1月	2月	12月
新地金	175t	132t	273t
前年比	+41.1%	144%	+9.6%
二次合金	995t	1240t	1797t
前年比	+33.9%	+65.1%	+87.4%
スクラップ	6361t	11693t	12518t
前年比	-60.2%	-33.4%	-9.2%
輸出推移			



出典 財務省貿易統計

	1月	2月	3月
新地金	14万 1859t	10万 6620t	11万 9714t
前年比	+7.7%	+2.9%	+25.7%
二次合金	9万 4810t	8万 72856t	8万 6204t
前年比	+3.9%	+44.9%	+45.6%
スクラップ	743t	770t	737t
前年比	-35.4%	+6.8%	+0.96%
合衆スクラップ	4097t	4273t	3445t
前年比	+24.3%	+44.2%	+12.8%
輸入推移			



出典 財務省貿易統計

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比六・四%増の一八万一、一〇一t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一%減の七万二・八四〇tであった。(六面へ続く)

(四面より続く)

■見通し

四月は中国経済減速懸念およびウクライナ情勢の緊迫化に一喜一憂した月となつた。

自動車生産は九三万九千台で、前年同月の八二万台、一一台に比べて一万五千台減台。一四〇%の増加となり、七力月連続で前年同月を上回つた。このうち、乗用車八〇万台、四六万台で二〇万台、五〇六台。一四・九%の増加となり、七力月連続のプラス。トランク一二万台、〇九九台で一万〇千台減台。九・五%の増加となり、九力月連続のプラス。バス一万一千台で四三三台。四・〇%の増加となり、四力月連続のプラス。

三月の国内需要は七八万三千八九台で、前年同月比一七・四%の増加、輸出は前年同月比〇・六%の減少。(実績)

販売の方は八力月ぶり減少の四八万台、〇三九万台で、前年比一四・五%増。このうち乗用車一六・九%減、貨物七・八%減、バス二八・六%減。

(持家)

新設住宅着工戸数は一九力月ぶりの減少、前年比二・九%減(季節調整済み前月比二・六%減)の六万台。

(貸家)

前年同月比では二力月連続の減少(前年同月比一

五一・三%増)季節調整値の前月比二・一%減。

(分譲住宅)

前年同月比では二力月連続の減少(前年同月比一

五一・三%減)季節調整値の前月比八・八%増。

(分譲マンション)

前年同月比では一力月連続の減少(前年同月比一

三・四%減)。自動車関連のアルミニウム合金生産は前年比一%減の七万二千台と九力月ぶりマイナス。

圧延・押出品生産数は六・四%増の一八万台、一〇一t。七力月連続プラス

圧延に関して、(1)缶材三万八千台、八九二t(〇・六%増)：三月のビール系飲料の出荷量は前年同月比一六・七%増となつたが、缶材の薄肉化等によりプラス幅は軽微。

(2)自動車一万一千台、四七六t(九・七%増)：消費増税前の駆け込み需要で新車販売台数が伸び、七力月連続でプラス(三月の新車販売台数：七八万三千台、前年同月比：一七・四%増)。

(3)輸出一万五千台、一九九t(一四・八%減)：中国、東南アジア向けを中心には需要は低調で、一二二力月連続でマイナス(通関統計による)のタイ向け輸出：二千八五t、前年同月比：三五・〇%減)

押出に関して、(1)建設四万五千台、〇一一t(一一・七%増)：二月の新設住宅着工戸数(六万九千台、六八九戸)が前年同月比一%伸びたことに加え、内外装材も伸びたことから(前年同月比：四二・七%増)、一〇力月連続

でプラス。

(2)自動車一万一千台、九千九百台(九・六%増)：板類

と同様の動きであり、七力月連続でプラス。輸入は新地金が前年比九・六%増の二七三t、二次合金が八七・四%増の一七九七t、スクラップが九・二%減の一万台、五一八t。割安感のあるスクラップ以外は円の安定を背景に輸入増との見解。

輸入は新地金が前年比二・五・七%増の一一万九千台、一四t、二次合金は四五・六%増の八万台、二〇四t、スクラップは〇・九六%増の七三七t、合金スクラップは一二・八%増の三、四五五t。前月に続き消費増税前の駆け込み需要もピーク、自動車関係を中心に好調な内需から輸入増

〔アルミ需給に関する〕

住宅関連は新設住宅着工数が前年比二・九%減の一九力月ぶり減少。持家二三%減、貸家一一・三%増、分譲マンション一三・四%減と大幅減少。消費税前の駆け込み需要も終了したのか?前月の一%増からついに二・九%減と減少。来月の動向に注視したい。

自動車は生産が七力月連続上昇の一四%増、ただし四月の国内販売台数が前年比一・四%減と大幅減。販売が急減した四月以降の生産を注視。

前月に続き消費税前の駆け込み需要の反動から、住宅、自動車需要の二本柱が減少傾向にあり、共にどの水準で落ち着くか注視したい。

為替が前月から引き続き一〇二～一〇三円近辺と円高が継続しているものの、自動車関係を中心としたアルミに関しては駆け込み需要の反動はあるものの、慢性的な供給不足から需給は引き締まつたまま

との見解。

〔アルミ価格について〕

今月も中国の動向およびウクライナ情勢に左右される。中国の動向に関しては、四月の中国HSBC製造業PMI改定値は四八・一に下方修正。ただし前月からは小幅上昇。四月の国家統計局発表の中国製造業購買担当者指数が五〇・四と予想の五〇・五を下回つたが前月の五〇・三は上回つたこと。

また中国人民銀行は、微調整を伴う穩健かつ安定的な金融政策を実施することを表明したことからセメント指数も改善したと判断。

ウクライナ情勢に関しては予測とは一転、親露派とウクライナ派の対立がいまだ続いていることから長期戦になる可能性が高い。

それらを踏まえたアルミ価格、上値は、中国PMI指數が國家統計局、HSBCとともに五〇を超える改善が見られ、ロシア・ウクライナ情勢が現状もしくは悪化した場合、アルミ供給懸念から四月高値のもう一段高の一・九〇〇ドルを予測。いずれかの場合は一・八〇〇ドル。

下値は再び中国PMI指數が共に五〇を割り込む水準になり、ウクライナ情勢が改善された場合、アルミ供給懸念の後退から四月安値の一・七〇〇ドルを予測。為替TTTSは中国PMI指數が共に五〇を割り込むが行われた場合、下値はドルユーロ高円安から三月安値の一〇三円台。上値は景気対策や撤退行わななかつた場合、失望感から一〇一円まで円高が進むとの予測。